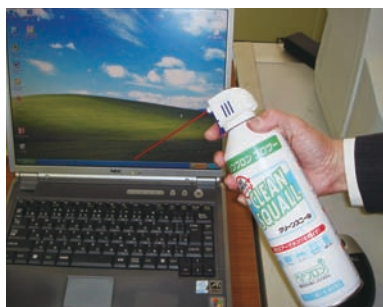


ノンフロンダストブローワーについて

ダストブローワーって？



ダストブローワーは、高圧のガスを噴射し、ほこりなどの粉塵除去、静電気除去、冷却などの目的で、事務用機械（コンピューターやその周辺機器・OA 機器等）、製造工場・研究所等の精密機器（電子機器・光学機器等）、銀行やコンビニエンスストア等の ATM、駅の自動改札機のメンテナンス等に幅広く利用されています。ダストブローワーは、コンピューターなどが普及するにつれて大幅に需要が増大しており、近年では毎年 600 万缶程度が販売されています。

ダストブローワーの噴射剤には、従来からフロン類が使われています。ダストブローワーは、噴射すること自体を目的としているため、フロン類はそのまま大気中に排出され、2006 年時点で、温室効果ガス量換算で 80 万 t - CO₂（日本人一人が年間に排出する CO₂ 量を 10 t と考えると 8 万人分）もの温室効果ガスがダストブローワーから排出されていることになります。



ダストブローワーに使用されるフロン噴射剤は、モントリオール議定書で製造が規制された CFC、HCFC から、京都議定書の対象となっている HFC へと移行してきています。HFC の中でも、温室効果の強い HFC134a から、温室効果が比較的弱い HFC152a へと移行してきています。さらに、近年では、フロン類の代わりにジメチルエーテル (DME) や二酸化炭素 (CO₂) を使った製品が販売され始めています。

フロン使用製品とノンフロン製品の比較

	名称	燃焼	臭気	GWP	形態	圧力
フロン使用製品	HFC134a	不燃	なし	1430	エアゾール缶	低
	HFC152a	可燃	なし	124	エアゾール缶	低
	HFC152a/DME	可燃	微臭	<124	エアゾール缶	低
ノンフロン製品	DME/CO ₂	可燃	微臭	<1	エアゾール缶	低
	CO ₂	不燃	なし	1	高圧ボンベ	高